



2016年度 JICA課題別研修「国際標準を活用したICT政策の推進能力向上—途上国の状況に応じたICTインフラ整備による課題解決—」コース

一般財団法人日本ITU協会 国際協力部

2017年1月19日から2月3日までの約2週間、(一財)日本ITU協会は、(独)国際協力機構(JICA)からの委託を受けて集団研修を実施した。研修内容は、国際標準を活用して、各研修員の自国におけるICTインフラ整備等の社会問題を解決することを目指して、最適なICT政策を検討できるような人材を育成することを目的としたものであり、国際標準を基点として、より効果的・効率的な通信インフラの整備について理論的、実践的な研修を実施した。

本研修は、平成24年度から総務省の協力を得て、当協会が実施しているもので、2016年度は、5年目にあたり、コロンビア、エクアドル、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、パプア・ニューギニアの7か国から13名の研修員が参加した。

研修は、日本政府の電気通信事業政策および情報通信に係る標準化政策の講義を皮切りに、ITUの標準化動向、課題分析手法(PCM)、Inception Report発表、日本の標準化機関等の活動、関連各企業団体等の標準化活動、Individual Report発表等の各講義や発表に加え、関連施設の視察で構成された。

日本の通信政策・標準化政策科目として、「日本の電気通信事業政策：Telecommunications Policy in Japan」(総務省)、「ICT分野の標準化について：Standardization of ICT in Japan」(総務省)の講義を行った。

日本の標準化機関等の活動としては「TTCにおけるグローバル標準化動向：Towards Global Standardization in TTC」(TTC：(一社)情報通信技術委員会)の講義および「電波システムの標準化：Standardization of Radio Systems」(ARIB：(一社)電波産業会)の講義を実施した。ITUの標準化動向としては「ICT分野における標準化とITU-T：Standardization on ICT fields and ITU-T」(TTC)の講義を行った。

標準化を実際に機器等に反映させる機関の活動として、「電気通信機器の基準認証制度：Certification System for Telecommunications Equipment in Japan」(TELEC：(一財)テレコムエンジニアリングセンター)、「HATS概要：Overview of HATS」(HATS推進会議)、「HDTV会議端末の相互接続性確保に向けた取組み：Activities to Achieve Cross-

Vendor Interoperability between High Definition Visual Communication Systems」(HATS推進会議)、「光アクセスシステムのための相互接続試験と標準化活動：Activities for Interoperability Tests and Standardizations of Optical Access Systems」(HATS推進会議)の各講義を行った。

日本の通信政策・標準化政策、ITUならびに日本の標準化機関の活動状況に関する講義が終了したところで、PCM(Project Cycle Management)という分析手法の講義を実施し、研修員の各国における標準化に関する課題の抽出を行うとともに、グループディスカッションにより、研修員間での知識レベルの共有を図った。さらに、このPCMの講義を、再度、研修の最後のIndividual Report発表の直前に実施し、グループディスカッションを通して自国のICTの標準化に係る課題解決方法の策定や、自国の標準化活動の展開等について各自が整理できる機会を与えた。

関連各企業団体等の標準化活動としては、「KDDIのICTサービスおよび技術の開発戦略：KDDI's Strategy for Development of ICT Service & Technology」(KDDI)、「将来のネットワークの標準化動向：Current Status on Standardization of Future Network」(NTT)、「移動通信の標準化動向：Global standardization of mobile communication systems」(NTTドコモ)の各講義を行った。

施設見学としては、TELECの電気通信機器の基準認証関連設備、NICT展示室、富士通ショールーム(テクノロジーホール)、NHK放送センター、NECショールーム(Innovation World)および神奈川工科大学のHEMS認証支援センター(スマートハウス)の各施設を訪問し、各社・団体における新技術の開発、標準化活動等について視察を行い、各社の最新技術、標準化への取組みなどについて理解を深めた。

TELECでは、「電気通信機器の基準認証：Certification System for Telecommunications Equipment in Japan」の講義ならびに電気通信機器の基準認証機器設備を視察し、基準認証の重要性への理解を深めた。

NICT((国研)情報通信研究機構)では、NICTの各種活動の概要を視察するとともに、「NICTにおける標準化に対する取組み：Research and Development on ICT and Standardization Activities in NICT」の講義を実施した。

富士通ショールーム「Fujitsu Technology Hall」では、富士通の最新技術を視察するとともに「富士通のICT標準化への取組み：Fujitsu's Activities of International Standardization」の講義を実施した。

神奈川県立理工学部の「HEMS認証支援センター：Interoperability Test Center of KANAGAWA Institute of Technology」では、実際のスマートハウスを視察し、家庭用の各種機器の標準化の重要性について再認識するとともに、「スマートハウスの現状：Current Status of Smart-Houses」の講義を行った。

NHK放送センターでは、「Technical Operation Center」「ハイブリッドキャスト」「8Kテレビの試験放送の様相」の視察を行うとともに「放送インフラの構築について：Setup of Digital Terrestrial Television Broadcasting Network」、「放送と通信の役割・連携について：The Roles and Convergence of Broadcasting and Communications」、「NHKのデジタルコンテンツサービスの概要：The Outline of NHK Digital Content Service」の各講義を行った。

NECのショールーム「NEC Innovation World」におい

ては、NECの最新技術を視察するとともに「ワイヤレス・ブロードバンド・アクセス：Wireless Broadband Access」の講義を実施した。

さらに、本年度も昨年度より実施している研修員のための日本文化視察を行った。研修の最初の段階で「日本電波塔（東京タワー）」の視察を行い、研修の終盤に、英語のボランティアガイドを手配して「明治神宮」の視察を行った。

研修の最終日には、各研修員によるIndividual Reportの発表を行った。Individual Reportは研修員各自の自国の標準化活動の状況と今後の展開等を本研修の成果とからめてPCM手法等を用いて整理したもので、各国のICTに係る標準化活動の展望について活発な議論が行われた。

本研修コースは、研修員からは、好評を得ているが、当協会では、より満足の得られる研修としていくために、研修終了時に研修員より講義内容、テキストおよび施設見学に対する評価、意見ならびに要望等を聴取し、これらの評価結果を分析、検討し、コース実施上の改善点を明らかにし、次年度以降のプログラムに反映させる考えである。



■写真1. 総務省表敬



■写真2. TELECの視察



■写真3. スマートハウスの視察



■写真4. 明治神宮の視察